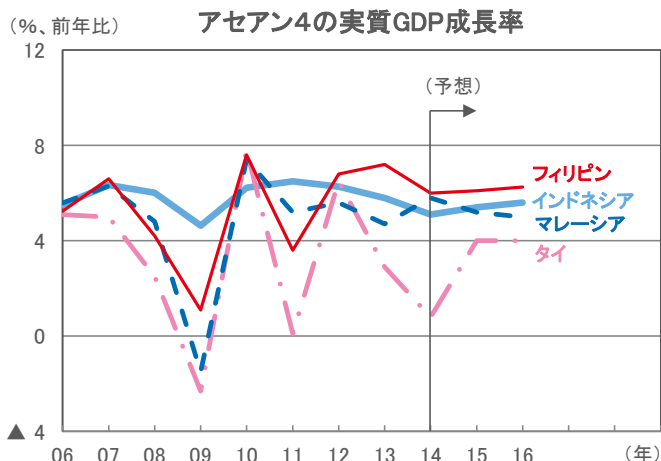


今日のトピック 2015年のアジア(アセアン4、インド)経済の見通し 輸出と投資がけん引役となり成長は緩やかな加速へ

ポイント1 景気は概ね底堅く推移

タイは政情不安により低成長が続く

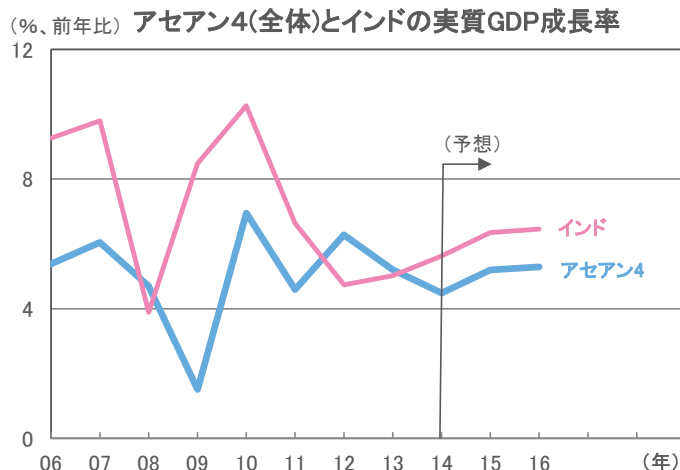
- インドネシア、マレーシア、フィリピンの景気は、消費が下支えとなり底堅く推移しています。消費の底堅さは賃金の上昇が背景です。輸出は、今年半ば以降中国経済の減速などから弱含んでいます。投資は、輸出の軟調さなどから足元でやや減速しています。
- タイでは、昨年後半から今年前半にかけての政情不安の影響から、足元で低成長が続いています。インドでは、消費の拡大により景気は回復基調にあります。



ポイント2 景気は緩やかな加速へ

原油価格の下落は景気にプラス

- 各国の景気は、輸出の回復と投資の拡大がけん引役となり、緩やかに加速する見込みです。輸出は、米国経済の回復と中国経済の安定化により緩やかに回復する見込みです。投資は政権交代後のインドやインドネシアを中心にインフラ整備などにより拡大の見込みです。消費は、賃金の増加などから引き続き底堅い推移となる見込みです。
- 最近の原油価格の下落は、輸送費や材料費を低下させ企業収益にとって好材料です。消費者の購買力を向上させる効果もあり、インドやタイでは景気のプラス要因です。



(注) 上下図表ともデータは2006年～2016年。2014年以降はIMF予想。
アセアン4全体の実質GDP成長率は各国GDPによる加重平均。
インドは年度(当年4月～翌年3月)。

(出所) IMFのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 輸出に加え低金利が投資・消費を下支え、インドは政策が投資を後押し

- 消費者物価指数の上昇率は、資源価格の下落などから各国で概ね低下基調が見込まれます。そのため、政策金利は概ね据え置かれそうです。資源価格の下落は、物価上昇と金利上昇の抑制要因となり、景気を支えると見られます。
- インドは、外資誘致政策による投資の拡大や原油価格の下落などから、景気回復が続く見込みです。
- 各国の景気回復にとってのリスク要因は、米国や中国経済の下振れなどと考えられます。

こども
チェック! 2014年11月18日 最近の指標から見るインド経済(2014年11月)
2014年10月31日 アジア新興国の経常収支(アジア)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。